

発行 伊藤ひであき事務所 豊橋市東田町西前山144-14 TEL 0532(53)3483 FAX (53)3809
EMAIL : hide@apli.co.jp インターネットホームページ <http://www.itouhideaki.com/>

3月議会での主張から

豊橋の活性化に戦略と知恵を！

3月9日(水)豊橋市議会本会議で伊藤ひであきは38回目の一般質問に登壇しました。

「愛知・岐阜・三重を結ぶ東海環状自動車道が、豊田JCTから中央自動車道で土岐ICで結び、さらに東海北陸自動車道的美濃関ICまで開通し、さらに延長が計画されている。一言で言えば、『東海三県が一つ』の時代の到来です。

これは中部国際空港と万博の二大国家プロジェクトの関連インフラ整備に投下された約3兆円によるものです。また4月1日には40万都市 新豊田市が発足し、愛知県二番目の都市になる。また7月には新浜松市が発足し、政令指定都市をめざす。

豊橋はこうした流れに取り残されているという危機感があるか」と市長に迫りました。

市長や産業部長などからは「中部圏域の一員として、地域全体の発展を願う立場からは東三河地域への重点投資等がおおそかにならなければならない。また、その中心都市として役割を果たしていきたい。そのためにも地域力向上に向け、港と農業を始めとする産業振興を進めることが肝要である。

また企業や技科大などの人材や知的資源をまちづくりに生かしていくことが大切である」などと抽象的な答弁に終始しました。

産業集積に欠く豊橋は豊田や浜松と競争したり、比較する必要はない。しかし、否、それだけに「みどり」と人のまちー豊橋の活性化」には、知恵と戦略が必要なのだ！

豊橋に転勤で移り住んで26年、豊橋の土の香りが好きなばくとつで不器用な議員が本会議場で追求し、提案し続ける豊橋の地域活性化への思い。

今回も、熱き思いは市長に伝わったのだろうか。

右手に「鍬」を、左手に「算盤」を！

文部科学省は2月11日、2004年度版「文部科学白書」を発表した。「読解力が低下傾向にあるなど、世界のトップレベルとはいえない」と明記し、社会全体での教育改革の必要性を指摘している。

さてどうするか。

ふと、「団塊の世代」の己が少年時代を思い出す。すし詰め教室、代用教員・・・、団塊の世代は最悪の教育を受けたことになりす。

そして、二つだけ、その当時に合って、今ないものがあります。一つは二宮尊徳像。もう一つは算盤です。

働きながら学ぶから二宮尊徳は背中にたきぎ(労働)手に書物(学)なのです。勉強の原点は「働きながら学ぶ」ではないのか。小中学校での労働体験の拡大こそ教育の復権のキーポイントでないか。

豊橋は日本一の農業都市でありながら、農用地の1割が遊休農地である。この農地を使って小中学生が農業体験でなく、農業そのものに取り組んだらどうか。午前中は学校、昼から田畑、農業教育特区は考えられないか！

もうひとつは算盤です。今や、世界のトップレベルといわれるインドの若者は99×99ができるけど、日本の子どもは9×9すなわち九九しかできないといひます。

算盤がもたらす計算力、なによりの暗算力こそ団塊の世代を一つの時代を創りえた最大の武器であると指摘されています。算盤が消えて、計算機になり、パソコンが普及したのと学力の低下の相関関係を叫ぶ教育者もいる。「パチパチ」とはじく算盤の音は人間教育の象徴ではないかと考える。

「鍬」と「算盤」教育復権のカギではないか

(END)